

# 岐大通 2011



2011 J.League Division2 第4節 **ファジアーノ岡山戦**  
9/3(土) 18:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

## この試合については、いろいろ言わせていただくよ？ 岐阜 2-3鳥取【第2節】

FC岐阜は長良川で鳥取と対戦し、2対3で勝利。押谷選手と西川選手のゴールでリードしたまでは良かったが.....、気持ちを切り替えて次にのぞもう。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

ホームでの鳥取戦、2対3で敗れた。西川が相手をかわし先制、押谷が勝ち越し、前半を終了。息子（9歳）と観戦し、この調子なら...。今日は勝ちの余韻に浸りたかった。ところが、押谷が何をした？えっ？一発レッド？あれで、一気に流れが...。同点、逆転され...。FC岐阜に対して、厳しい判定ばかり...。鳥取に負けた。と、いうより主審の判定に負けた。岐阜のスローインだ！！えっ？鳥取のスローイン？んな、ばかな！？帰路、息子と審判に対しての怒りトークばかりでした。（s223）

先日の鳥取戦を観戦してきました。残念な結果に終わりましたが僕にとっては嬉しい一日でした。

10歳の頃、キャプテン翼に影響を受けて始まったサッカーとの出会い。その頃はもちろんJリーグも無く、海外の試合は週末の「三菱ダイヤモンドサッカー」のみ。サッカーマガジンも月刊誌の時代でした。岐阜県にはその頃JSL所属の西濃運輸があり、大垣で試合があると1時間かけて自転車で大垣南グラウンドに友達と観戦しに行きました。あこがれの社会人チームの試合を観れて試合中はもちろん、明るく日も興奮が冷めない日々.....。

長良川競技場や北西部グラウンドに行くとなあの頃の興奮が戻ってくるんです。纯粹に目の前ですごいシュートが見れる.....。激しいプレーが見れる.....。北西部に行くとなあまりにゴールに近いところでボール拾いを始めるのでよくスタッフの方にお叱りをうける次第で。

勝ち負けとかのレベル以前に自分の近くにFC岐阜がある。その事実が嬉しくてたまらないんです。サッカーを始めた頃のキモチに戻してくれるFC岐阜。ありがとうございます。（ジャックパウアー）

数ある負けの中でもこの試合程指揮官の質の差が負けの直因になった試合は記憶にありません。

前半よくて後半がダメだったって試合の殆どが「後半もこのまま」の指示が出ていたはず。けど相手もプロである以上必ず悪かった部分を修正してきてなおかつ岐阜の悪い部分を分析してそこを突いてきます。鳥取戦の後半がダメだった理由は鳥取の監督が岐阜の守備の綻びを見抜いていたからです。一方岐阜は何も修正をせずに変化した鳥取に翻弄されてあの始末。

そしてもう見飽きた交代での常に後手を踏むシーン。同点に追いつかれる以前から洗一はアップを済ませて後は入れるだけでした。ところが投入は逆転を許してから。鳥取の逆転ゴールは追いついてすぐに投入されてその選手は4分で結果を出しました。一方逆転されたから投入された洗一は最後の最後で.....結果論なのかもしれませんが。

少なくとも監督が指揮官として無能なのは疑いようがありません。指導者としてはまだいいかもしれませんが、この場を借りてハッキリと更迭を要求します。もうあの監督では一切浮上の兆しは出てこないでしょう。（ジュニア）

前半と後半でこうも景色が変わるとは。前半先制した後にアンラッキーな形で追いつかれ、変わりかけた流れを押谷の一撃で引き戻して折り返したところまでは良かったが、後半鳥取の修正に対応できず逆転負け。不振の責任は誰かひとり（そしてそれはたいてい監督）に被せてしまいがち。しかし、最下位になるようなクラブはあらゆる箇所にその不振の原因を抱えていると思う。それがよく出た試合だった。

ベンチが明らかにガス欠の地主園を引っ張りすぎるなど後手に回ったのは采配ミスと言わざるを得ないし、何より手薄だったとはいえ自ら選んだりザブメンバーを信用してないのかも思ってしまう。

選手は選手で審判への抗議で余計なカードをもらい、退場者を出して自らゲームを壊してしまった。（審判のゲームコントロールもうまくなかったかもしれないが）何より、橋本が負けている上に残り時間数分という状況で審判への抗議で時間を浪費したのは、残念なのを超えて憤りすら覚えた。年齢、経験的に彼はチームを引っ張る立場で、特に冷静でいてほしかったのだが...

サポーターは前半終了時点で「今日はいける」という雰囲気を出してしまった。スタンドの雰囲気はピッチにも伝わるはず。サポーターも最後まで気を抜いてはいけない。このどん底から抜け出すためには、不振の原因を誰かに求めるのではなく、現場が、フロントが、サポーターが、それぞれの持ち場でしっかり戦うことだと思う。聞いた話だが、川浪が交代で入る選手に気合を入れてピッチへ送り込んでいたという。試合には出場していないが彼は確かに戦っていた。その姿勢がひとつのヒントになると思う。くしくも岡山戦は、負傷者や出場停止で主力の何人かが欠場。このクラブの底力が試される。（kumakuncj）

続きます。

### today's guest

### ファジアーノ岡山

2010 J2 17位  
J2通算対戦成績 : 3勝 2分 0敗

#### 2010成績

第1節 10/06/12 岐阜 1-0岡山

第3節 10/10/23 岡山 2-2岐阜

#### 2009成績

第1節 09/05/09 岐阜 4-0岡山

第2節 09/06/21 岡山 0-0岐阜

第4節 09/11/08 岡山 0-2岐阜

### 2011J2 順位表 第2節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から視て）

1	FC東京	41p	+18	32	14	A	H
2	徳島	41p	+13	33	20	H	
3	栃木	41p	+12	31	19	H	
4	千葉	39p	+9	33	24	A	H
5	札幌	37p	+8	24	17	H	A
6	鳥栖	36p	+15	27	12	A	
7	北九州	35p	-1	22	23		
8	東京V	32p	+15	43	27	H	A
9	大分	31p	-1	26	27	H	
10	愛媛	30p	-3	28	31	A	
11	横浜FC	29p	+1	23	22	A	
12	草津	29p	-9	25	34		
13	熊本	29p	-9	19	28	A	
14	湘南	28p	-5	21	26	H	
15	京都	26p	-2	25	27	H	
16	岡山	26p	-9	25	34		
17	水戸	23p	-7	23	30	H	A
18	鳥取	22p	-2	22	24	A	H
19	富山	21p	-13	17	30	A	
20	岐阜	11p	-26	15	42	---	---

## 次回 HomeGame

第2節  
ロアッソ熊本戦

9/11(日) 19:00  
@岐阜メモリアル  
センター長良川競技場

## 投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)

9/3号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく&吉田铸造

編集子より

ご愛顧いただきありがとうございます。  
今シーズンも「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願ひ致します。

## (鳥取戦の続きです)

“ファン心理”ってのはバカというか単純というか、前節の水戸戦ではたった3本しかシュート撃てなかったのに、それでも2-1で勝っちゃったモンだから「もしかしたらこれで流れに乗れるんじゃないか？連勝出来るんじゃないか？もしかしたら、ホーム3連戦だから全部勝っちゃって最下位脱出も…」なんて簡単に思ってしまう(笑)。だって、この試合は5連敗中ではかも5試合無得点の鳥取だし……って、自分たちだって水戸に勝つまで6連敗で6試合無得点だったってのはどこかに行ってしまう(笑)。

そして、実際に前半はそう思っても怒られないくらいの展開だった。鳥取の左サイドがユルユルだったこともあって、明宏と初先発の地主園でやりたい放題。ああ、鳥取が5連敗ってのも、わかるなあ…なんて、ある意味『上から目線』にもなってしまう。エースのハメドも非常にカラダが(物理的に)重そうに見えたり(笑)。

でも、結局は鳥取の3点すべてハメドがキーパーソンだった。長い距離でカケッコしたらノガでも勝った。でも、鳥取はハメドが長く走らなくていいサッカーをしていた。そうなんと瞬間的な10mダッシュでは勝てないし、タメも作れてラストパスも出せる。

そしてもう一つ、前半の押せ押せの空気の中で、ぼくらは2つのことを忘れてしまっていたのかもしれない。一つは、これまでも「前半は良かった」という試合はいっぱいあったということ。千葉戦だって、前半はよかったのだ。よいのだけれど、点が獲れない。たしかに鳥取戦は前半は2-1だった。でも、あの内容差で1点差しかつけられない。ここに、岐阜隊が圧倒的な最下位に沈みまくる理由があるのに。

そしてもう一つは、「ウチの監督は修正が出来ない。でも相手の監督はそれが出来る」ということ。鳥取の監督が、鶴見のケガを戦略的にキチンと使って地主園の自由度を下げると、前半イキイキとして見えた岐阜の攻撃は綺麗に消滅してしまった。

同点になったところで即座にFWを入れ換えて鮮度を上げる鳥取の監督は「この試合は獲れる！獲る！」というメッセージを選手に出した。一方の岐阜の監督はというと、準備が終わっていたように見えた洗一を投入したのは、鳥取がその投入したFW住田のゴールで勝ち越してから。「5分遅い！」と一緒に観戦していた友人が怒り出すのも無理はない。

たしかに、押谷が素晴らしいミドルで決めたゴールを自身の退場で綺麗サッパリと洗い流してくれてから、木村監督は立て続けに選手を投入して「追いつけ」というメッセージを発信した。けれど、所詮は『リアクション』の采配でしかない。試合をどのようにマネージするか、その部分の引き出しが圧倒的に少ないのだ。

選手にブーイングする気はない。10人になってからも、ピッチ上の選手は必死になって闘った。そして、闘っているのはピッチ上の選手だけじゃないと示していたのが、控えGKの川浪だ。アップを続ける選手にベンチから交替出場の指示が出る。ピブスに手をかけつつベンチに向かう選手。その選手を「頼むぞ！お前なら期待に応えられる！」とばかりに思いきり後押しして送り出す川浪の姿に『闘う姿』を視た。そのように送り出された選手が闘わないはずがない。実際、3人目の交替で入った阪本のミドルを相手GKが弾いた、そのボールを洗一が枠の上に蹴り出さなければ、まだ少しは救いのある試合終了の笛が聴けたはずだ。

試合終了後の挨拶では、バックスタンドのコアサボ隊から『記念碑的に酷い試合』だった札幌戦以来のナマ罵声が聞こえた。ぼくは、メインスタンドから選手を拍手で迎えた。押谷にはその拍手が届かないように願いながら。そして気づいたのだ。拍手の数が少ないこと。他の観客がブーイングしたり罵声怒号を飛ばしているのではない。メインスタンドの観客は、帰ってしまったのだ。試合が終わった後の選手を迎えることもなく「あ～終わった、帰ろうか」と帰路に就く。その選択を、否定も批判もぼくは出来ない。

よほどの転換がない限り、今シーズンのFC岐阜はこのまま圧倒的に最下位を維持することになりそうだ。移籍期限も終わって、今シーズンは選手も監督もこのままだ。よほどの転換を期待しなかったって、手材料がなさ過ぎる。

既に、FC岐阜の商品は『選手が必死に闘う姿』になった。勝ち点はボーナスだ。勝ち点3なんか取れたらビッグボーナス。受け入れがたい現実だが、仕方がない。

そして木村監督、お願いだから来年は監督を引き受けなくて下さい。ご自身が「Jリーグ・クラブの監督には向いていない」というのはわかったはずですが。今年は倉田監督の交替という“緊急事態”だったかもしれませんが。でも、チームをここまで「弱く『して』」、それでも来年も監督を続けるというのなら、そこには相応の覚悟が必要となる。それも、ご存じのはずです。(吉田鑄造)

6連敗して1勝、6連敗して1勝。やっとエンジンがかかったのか、それとも水戸戦はフロックだったのか？を見極める為の大切な試合が鳥取戦。幸い相手は5連敗中の18位で今後の機運を計るには良い相手。どんな形でもいいからここで勝てば波に乗れるだろうと思って蓋を開けてみたら何の事は無い。

前半終了時にリードしていた時に「今日は勝てる」と確信できましたか？私はそれ以上に「雑すぎる」と感じました。前半にあった何度かのチャンス、決めきれていてスコアを離せていたら勝利を確信して気持ちよくハーフタイムを迎えられたかもしれません。

雑なプレーは後半にも多々見られました。失点後に軽いプレーでボールをロストして決勝点に繋がるプレー、絶対的なシュートチャンスが枠にも飛ばない、オーバーアクションで要らないカードを貰う。丁寧さ、冷静さを欠いた結果、勝ち試合の流れを相手に与えてしまったと思っています。

---

シーズンも半分を過ぎました。ここで結果を出さなければ今年入団3年目を迎える主力のこの2年間は何だったのか？何で今年は結果が出ないのか？

原因を一言で言うならば環境への慣れ、慢心だと思って居ます。集中力が足りないから判断が遅れて雑なプレーに繋がりが、チャンスをフイにする、ピンチを招く。そのうちゴールが決まるだろう、誰かがシュートを打つだろう、そのうち勝てるだろうと言う思いがどこかに有るのではないのでしょうか？

監督・コーチのベンチワーク、万年ベンチ外の選手も含めて、チームがプロ意識に欠けていると思います。大事なのは選手個々が「俺が勝利に導く」と言う我(が)が足りないと感じます。

---

勝負ごとだから全部勝てとは言わない。一生懸命勝利をめざし、その結果敗れたのであればそれは仕方ない。いやちょっとまで、今年は既に負け過ぎたから残りは全部勝て。試合が終わった時にはどんな結果になろうと、全員が胸を張って挨拶に来れるようなプライドのあるプレーが見たいです。(長尾)

# ALADDIN

何も無い店だけど・・・

心の花が咲く・・・

何も無い店だけど・・・

心癒される・・・

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「絶対に勝たなければならない試合」だった。前節、今季2度目の6連敗をして、アウェイ水戸戦の試合終了直前によく掴んだ劇的な勝利。この勢いを今度こそ逃さずに連勝し、リーグ後半戦での巻き返しをするために、非常に重要なホーム3連戦の第1戦目。しかも、初戦の対戦相手は今年Jに昇格したばかりのガイナレ鳥取。現在18位で5連敗中と調子を落としている相手と、ホーム長良川での初対決。FC岐阜と連携協定を結んでいる台湾からの来賓が観戦する試合だったし、そして何よりも、昨年水難事故で亡くなったU-15の桐山周也選手へ黙祷を捧げ、喪章を左腕に巻いて、特別な想いをこめた試合。様々な理由で、岐阜にとっては「勝たなくてはならない試合」だったし、そして実際に「勝てる試合」だった。

しかし、何度この言葉を繰り返す事になるのだろうか...、「前半は良かった」と。試合前半はキックオフから、岐阜の選手たちは運動して積極的に攻め上がり、チャンスを何度も作った。鳥取はプレスもそれほど厳しくなかったので、ボールも良く繋がり、前半16分には西川のゴールが決まる。ところが、早い時間帯に得点できて油断したのか、僕には、岐阜の選手たちの動きが急に「緩く」あるいは「軽く」なったように見えた。ボールは奪えているしパスも繋がる（と言っても、やはり精度が悪くてミスは多かったのだが）けれど、全体的にみると、献身的に走る量が減り、リスクを負って前に仕掛けなくなったように思えた。そんな中、セットプレーでの失点。でも、あの失点は仕方ないと諦めることもできる。相手FWハメドのFKが壁に当たってコースが変わり、GK野田が逆をつかれて入ったゴールだったから。それに、その後の岐阜は再びスイッチが入ったかのように動きが良くなり、勢いが戻った前半37分に押谷の見事なミドルシュートで2点目。鳥取のプレスが弱いから撃てたとはいえ、とても美しいゴールだった。ところが、ここで更に勢いを増して攻め立てて、追加点を奪ってしまえばいいのに、そういった姿勢を見せることなく、またペースダウン（したように僕には見えた）。どうも、今日の選手たちは「相手に合わせてしまっている」なぁ...と、確かに試合は優勢に運びながらも、なにか不安を感じつつ、2-1で前半は終了した。理想で言えば、前半で3-1にしておきたいところだった。1点差はワンチャンスで追いつかれてしまうのだし、二度も追いつかれた場合、それを三度突き放すのは苦勞するものだから。そして不安は、後半になると現実になってしまう。後半開始から動きが鈍い岐阜に対し、徐々にではあるが動きが良くなってきた鳥取。それでも、まだ岐阜が優位だった...後半16分までは。後半16分に、地主園が右サイドを駆け上がり、ゴロで中央にボールを入れるが...ゴール前に詰めていた嶋田・押谷の2人とも足を一歩出すことが出来ず、ボールはゴール前を通り過ぎていった。そしてその後、今度は鳥取に右サイドを破られ、上がったクロスは...走り込んできた敵FW実信がヘッドで合わせ、2失点目。確かに良いクロスだったし良いヘディングだったが、またしてもゴール前に数人のボールウォッチャーが...秀人がクリアしようとしてカブったのだが、他の選手は秀人に任せ切っていたように見えた。

この失点直後のベンチワークも、残念ながら対照的だった。鳥取は追いついた直後にFW住田を投入し『更に攻めろ』。そして、その住田が結果を出す。後半22分、バイタルエリアでハメドとのワンツーからフリーで抜け出してGK野田と1対1になった住田に、逆転ゴールを決められてしまう岐阜。ここでも、守備の甘さが致命的だった。そして、岐阜の選手交代は、追いつかれた6分後、逆転された後だった。しかも逆転されたのに、交替はいつもの西川 光一のFW同士。確かに優位は疲れていたかもしれないけれど、それならもっと疲れている（ように僕には見えた）選手が他にいたし、ツインタワーにしてポスト&パワープレイという選択肢もアリだったのではないだろうか...

追いつこうと必死になる岐阜の選手たち。しかしそんな矢先、押谷が異議で2枚目のイエローを受けて退場...。確かに、僕が目から見てもこの試合は不思議に思うジャッジが何度か（何度も？）あった。しかし、今日の主審は（主審

には大変申し訳ないけれど）まだJ2で4試合、それまではJFLの審判だった人なのだから、判定がブレる事は想定内だろうし、その前の判定でもカードを出しやすいタイプだったのは分かってたはずだろう。選手が審判に文句を言っても判定は変わらないし、そういった判定も含めてサッカーなのはJリーガーなら百も承知のはずだ。もしくは、チームとして事前にそういった情報を選手にきちんと伝えておくべきではないのだろうか。

更に劣勢になった岐阜。なんとか同点に追いつこうとするも時間が無情に過ぎてゆくが...89分、交替で入った阪本が強烈なミドルを放ち、なんとかGK小針が弾いたボールに飛び出した洗一が1人で詰め、蹴ったボールはゴールに...僕は「よし、同点だぁ!!」と思ったのだが...なんと、ボールはゴール枠外に。あまりの信じられない光景に、悲鳴と動揺が走るスタジアム。僕は正直、このプレーで（この後も全力で声は出し続けていたが）「アレが入らないようでは、もうダメだ」と、心が折れてしまっていた事を告白しなくてはならない。洗一だけではないのだが、最近ピッチ内練習の時点でボールが枠に飛んでいない選手が多いのが気になる。既に格言となっている感もある（苦笑）が、「練習で入らないモノが試合で入るはずがない」。もっと意識を強く高く持った猛練習が必要だと思う。そして、試合終了の笛。同時に激しいブーイング。審判への不満か選手への怒りか、あるいは両方か...。僕は疲れと怒りどでブーイングする気力もなく（苦笑）、「なぜ、こうなってしまうのか?」を考えていた。

...で、たどり着いてしまうのが、この結論だ。「今年のFC岐阜は、90分間走りきるサッカーができない」。90分間ひたむきに走り抜くスタミナが無いから、途中で動きが鈍り、集中力が切れてミスをするのだと思ってしまう。理由はいくつか考えられるだろう。東日本大震災の影響で今年はキャンプがまともに出来なかったのも原因だろう。昨年度から続く2012年ぎふ国体の改修工事のために、なかなか練習場が確保できていないだろうし、そのためだと思うが、今年は2部練習（1日2回の練習）をしていない。しかし、だ。まともなグラウンドが確保できなかったとしても、走り込みはどこでも（それこそメモリアルのジョギングコースでも長良川河川敷の高橋尚子ロードでも）出来るのではないか。個人的には、「貧乏クラブ」を自慢してウリにするのは笑って許せるが、だからといって「貧乏なりの工夫」をしないのはいただけない。悔しいけれど、ダントツ最下位の状況なのだから、チームも選手たちも「勝つために自分たちがやるべき事は何か」を、もっと突き詰めて考えて欲しいと切に願う。

少し過去を振り返ってみると、2008年のFC岐阜は、ベテランが多かったので上手い試合運びで勝っていたが、90分間走りきるサッカーが出来るチームではなかった。2009年に選手の大量入れ替えで（今いる選手の多くが入ってきて）若いチームになり、同時に2部練習をするようになり、「長良川劇場」と呼ばれた「90分ひたむきに走り抜くサッカー」が生まれたのだと思っている。J1クラスの選手たちは、もちろん技術的にも優れているが、やはり走力でも優れている選手が多いのも事実だ。もしも、今のFC岐阜の選手たちが90分間最後までひたむきに走るサッカーが出来ないのであれば...

さて、今節の岡山戦では、この試合でスタメンの押谷と橋本が出場停止。勝ち点も、19位と10点差と更に開いてしまった。こういった閉塞感を打ち破る為にも、チーム内の競争活性化のためにも、勝ち点3が欲しいのは当然だが、やはり今までベンチ外だった選手にも出場の機会を与えてほしいと思う。そういった工夫の跡がなかなか見えないから、つつい僕らはストレスを溜め込んでしまうのだろう...。とはいえ、やはり僕らが見たいのは、FC岐阜の勝利でしかない。今節も最後に万歳四唱するため、選手を信じて、勝利を信じて、声援を送り続けたい。（ささたく）

続きます。



## (鳥取戦の続きです)

うーん、なんといったらいいのかわからない。今まで、この紙面であーでもない、こうでもない、と好き勝手に書き連ねてきたけれど、攻撃や防御はもちろん試合後の心持ちですら、いっこうに回復呪文の効かない実にダメージのデカイ敗戦となってしまった。

あたりまえのことだが、ゲームである以上勝ち負けはつきもので、思うようにならないことは承知している。「6位以内」というのは「クラブの目標」であって、去年や一昨年の成績であっても、それなりに地元プロの球団があることを享受し、堪能してきたことは疑う余地もない。それでも、「勝てないけど全力を尽くしました」という内容だけで満足しろというのは、プロのクラブとしてありえない。目標はともかく、ひとつでも多くの勝利を重ね、少しでも上の順位に行くためには18位の鳥取は是が非でも叩かなければいけない相手。その相手に先制しながらの逆転負け、しかもホームで。今季の数少ないよりどころだった「先制した試合は負けてない」というジンクスも、あっさり失ってしまった。もっとも、先制して勝った試合は2試合とも水戸戦だから、ジンクスというもおこがましかったのかもしれない。間が悪いことに、鳥取戦の翌日にはブービーの富山が首位のFC東京相手に完封勝ちを演じるという始末。こちらが手も足も出なかった首位のクラブを、すぐ上の順位のクラブがジャイキリしてしまう。その結果として、勝ち点で大きく差をつけられてしまい、ここからの逆襲の可能性については疑問符がつく状況になってしまった。さらにいえば、同じ負けるにしても負け方がある。初スタメンの地主園は期待以上の活躍をした。ここまでの岐阜になかったタメを作り、押谷のゴールを始めいくつかの好機を演出してくれた。だが、グラウンダーのクロスを入れて以降疲れからパフォーマンスが落ちた後も必要以上に引っ張り、交代は終盤になってからというのはどうなのか？代わりに登場した阪本が得点の匂いを感じさせるプレーをしてくれただけに、文字通り後手を踏んだ感じは否めない。そのうえ、負けているにもかかわらず、判で押したような光の交代。開幕してから半年過ぎても75分しか戦えない選手と、15分しか走れない選手に貴重な交代枠を費すことにも疑問符が付く。リードしているならともかく、逆転もしくは最低でも同点を狙うのなら、もっと早い段階でハンジェを投入するべきではないのか？そして、これまた判で押したような交代で優大アウト洗一イン。それらがすべて、逆転されてからというのが納得できない。リードを守るのか、追加点を奪いにいくのか？指揮官の意図は見えないまま、逆転の憂き目に遭う。対戦相手の鳥取の交代。そこに示された意図が明確ただけに、彼我の間にある差が大きく感じられた一戦だった。

ただ、敗戦の責任は指揮官だけにあるのではない。それは選手もわかっているはず。おそらく、スタジアムにいた観客の誰もがゴールを確信したアレを外した洗一には猛省を促したい。今季の洗一は、ああいう場面が多すぎないか？そして、押谷。あの2枚目のイエローは決してもらってはいけない場面。年齢は若いけれども、ことサッカーに関しては年数も経験も積んできたはず。あそこで異議を申し立てても判定は覆らない。しかも、すでに警告を受けている状況でキャプテンでもない彼が取っていい行動かどうかは、考えなくてもわかっていたはず。わかっていたほしい。負けている状況で、一人少なくなることが、どれだけ仲間負担を強いることになるのか。前半の勝ち越し弾は鮮やかだった。あんなゴールを決められるのは、岐阜の選手ではキミだけだ。あのまま残っていれば、土曜の鳥取相手なら十分に逆転可能だった。少なくとも、ボくらにはその期待が持てた。押谷には、自分の能力、チーム内への影響をもっとも理解してほしい。あまりにも、もったいない。それでも、10人になってからも、逆転できそうな気配は感じられた。それは、5戦連敗無得点の鳥取が醸し出していた雰囲気だったのかもしれない。それだけに、今回の結果はとても残念だったし、衝撃は大きい。今季のJ2はまれに見るほどの混戦になっている。その中で、ただひとつ番外地になっている現状が悲しい。(ぐん、)

## 【ユース】 前期リーグ戦勝ち抜け決定

我々がFC岐阜ユースU-18(以下:岐阜ユース)は8月28日に県リーグ戦の試合に挑み、県サッカー協会の公式サイトに依れば8対0の大差で勝利しました。この勝利により岐阜ユースは第4節消化時点で4勝0敗の勝点12となり、最終節を待たずに無事前期リーグ戦を勝ち抜けする事が決まりました。(パチパチパチパチ)

次は後期リーグ戦。G3の前期各グループの上位2チームが後期リーグ戦に進み、4チーム毎でのリーグ戦を実施。各グループの1位のみが来期のG2リーグへの昇格を勝ち取る事が出来ます。

岐阜ユースは本当はもっと上のステージで戦うべきチームだと思えますし、その実力も有る筈です。でも昨年の悔しさを胸に、決して驕ることなく着実に目の前の試合を戦い、昇格を目指して下さい。

FORZA! FC岐阜ユースU-18!! (シュナ)

## 【セカンド】 4年連続、天皇杯本大会出場決定!

東海社会人リーグ1部で戦うFC岐阜セカンド(以下、「セカンド」)は、8月28日に長良川球技メドウで行われた岐阜県サッカー選手権大会(天皇杯岐阜県予選)決勝で岐阜経済大学に7-0で勝利、見事4連覇を果たしました。昨年は、決勝で同じ社会人チームのNK可児に苦戦し、後半アディショナルタイムでなんとか決勝ゴールを挙げての勝利でしたが、今年は主力選手の何人かをケガで欠いている状況ながら、序盤から完全にゲームを支配しての圧勝でした。

セカンドは4年連続して天皇杯本大会に挑むわけですが、残念ながら過去3回はいずれも初戦で敗退(2008年は阪南大学に0-1、2009年はJAPANサッカーカレッジに1-3、2010年はHondaFCに2-7)し、Jリーグのチームとの対戦は果たしていません。

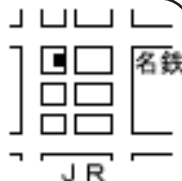
今年の1回戦は、昨年と同様に静岡県代表との対戦となりましたが、HondaFCは静岡県予選決勝で静岡産業大学に敗れてしまい、リベンジは不可能になりました。対戦する静岡産業大学は、東海学生リーグで前期を終えて2位の強豪です。かつてはJFLにもチームを送り込んでいたので、名前をご存じの方も多いでしょう。

セカンド×静岡産業大学の戦いは、9/4(明日です)の午後1時から、同じ長良川競技場で行われます(メドウではありませんのでご注意ください)。この試合に勝てば、次はいよいよJクラブ、しかもJ1の清水エスパルスとの対戦が待っています。

ひたむきなサッカーで、2009年・千葉全社(アイン食品戦)以来の全国大会での勝利を!そしてアウスタ(日本平)に乗り込むんだ!岐阜県代表・FC岐阜セカンドにご声援をよろしくお願い致します。(吉田铸造)

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。  
『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。

休:日曜日(今日は営業しています)



Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>